

校長あいさつ 令和2年2月29日（土）

今日で年度を終えることになりそうです。

最初に、今朝の放送で「第4回考査は中止」と私が言ったものだから、考査の範囲の試験は葬り去られたように思った人がいたと聞きました。訂正します。「第4回考査の試験範囲のテストは学校が再開されたらすぐにやります」。「明日からやります」と言われて慌てないように準備をしておいてください。

君たちは、「勉強」というと、まるで照れ隠しのように、「いやだー」と笑い飛ばしますが、本当は「おもしろい」ですよ。

ある文学者は「生きた者はすべて矛盾においてしか表現されない」というし、ある数学者は「数学における存在の意味は、矛盾を含まないという意味である」といいます。文学と数学ではこんなにも見える風景が違うのです。面白いでしょ。それを、学習で味わうのですね。

「教科の数だけ楽しみ」があるのです。「おもしろい」と思えるものが多いのは幸せです。学校の勉強は「頭の中をデザインすること」ですよ。だから、新しいアイデアも浮かぶと思っています。

私事ですが、情勢が目まぐるしく変わって、二転三転して、この臨時休業や卒業式をどうするかで頭がいっぱいになっていました。ところが、昨日の朝、突然「アルルの女」がかかりました。我に返りました。救われたような気持ちになりました。日常を取り戻せました。皆さんに感謝します。何気なく過ごせる毎日がどれほど貴重なものか教えられました。

この臨時休業で、皆さんは卒業生の合格体験を聞くことも叶いませんが、彼らは、「普段の授業が大切」、「課題を完璧にする」、「小テストを侮らない」、「定期考査に全力を尽くす」と口をそろえて言います。うっかりすると見落としている日常の大切さの気づきなのだと思います。それは後で取り返すことができないものです。

皆さんには、慣れた日常がしばらくなくなります。

「人は追い詰められたとき、その人がどんな人かよくわかる」と言います。今、日本全国の高等学校が追い詰められています。追い詰められたとき、学校としては、君たちの安全、健康を第一に大切にします。だから、生活のリズムも含めて、普段通りに近い生活

をしてほしい。これを言うのは、学校としては第一のことです。

次に、舟入高校が舟入高校であるために、君たちの教科学力を大切にします。先輩たちが大切だといった日常の取組のことです。これがいつも通りできなくなりました。だから、この情勢に抗って、どうか舟入が舟入であろうとして、君たちに今日1日かけて、休業中の過ごし方を伝えなかったのが、今日集まってもらいました。舟入が舟入であるために絶対に必要なのです。そして、舟入にしかできないことでもあります。君たちが登校しなくなっても、君たちがおせっかいだと思っても、私たちは、口を出します。君たちの健康と学習には、口を出し続けます。それが舟入ですから。

君たちが憧れた舟入高校の先輩にもそうしてきました。彼らは、苦しみながら、何事もなかったかのように笑顔ですごしてきました。だから憧れの先輩になったのです。これは、簡単にまねができないことです。

明日、その先輩たちを舟入高校は送り出します。彼らの多くは今、前期試験を終え、発表を待ちながら後期試験に向けて準備しています。彼らにも不自由をかける事態になりました。しかし、彼らはこんなことには負けません。

君たちも、これまで、見送りの準備をしてきたが、直接顔をみることは許されなくなっていました。声をかけることもできなくなりました。卒業生たちにも、寂しい思いをさせることになるかもしれませんが、彼らは、ちゃんと受け止めて、ひょっとしたら、悔しい気持ちを無理やりにでも隠して、何事もなかったかのように笑顔で去っていくと思います。それが舟入高校の生徒だと思います。在校生の皆さん。どうか、3年生に祝福の気持ちを遠くから届けてやってください。

君たち自身も、互いに会えない日々が続くと、苦しくなるだろうが、何事もなかったかのように笑顔で、この難局を乗り切れ。そして、君たちも中学生や小学生が憧れる舟入高校の生徒になりなさい。では、お元気で。